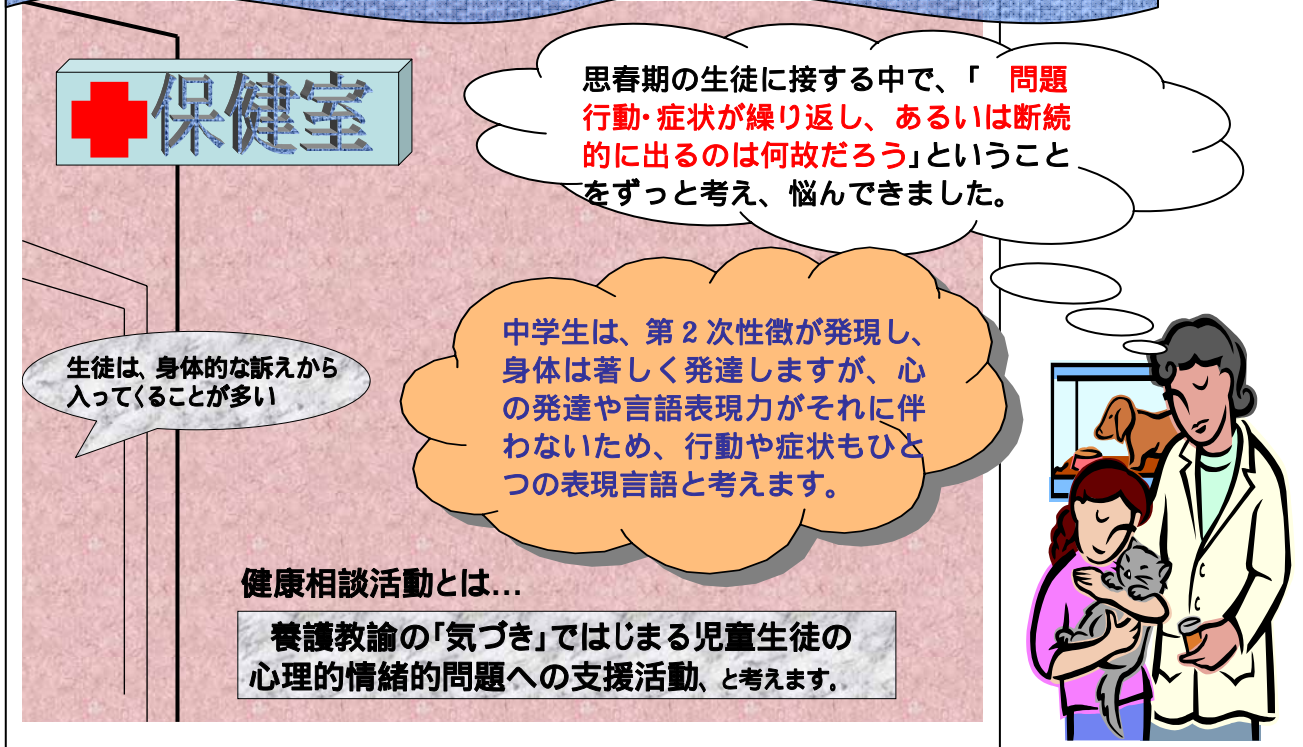
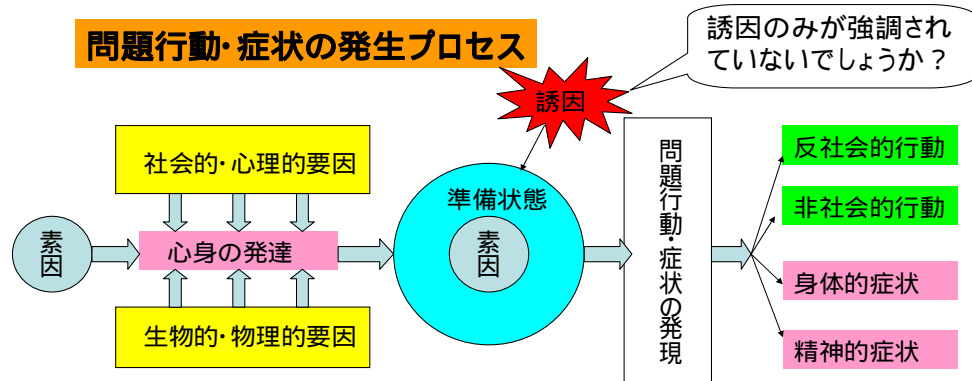


養護教諭が行う健康相談活動の展望～「心の居場所・心の支え」についての一考察～

教育相談課 長期研修生 清末昭子



* 問題行動・症状はなぜおこるのでしょう？



仮説

鳴澤 實 『発達の危機とカウンセリング』(ほんの森出版 2001)より

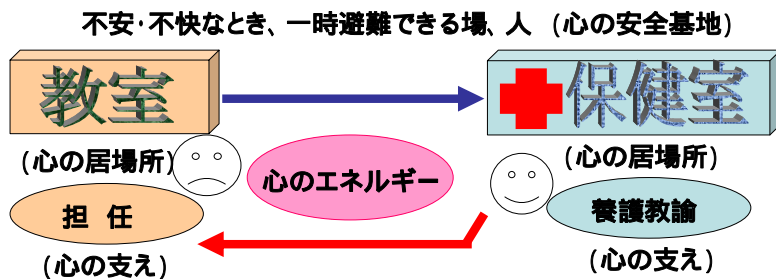
* 少々誘因があっても、心身の発達を十分保障することで、「準備状態」を作らなければ、問題行動・症状は出にくいのではないかと心理的要因に着目して...「心の居場所・心の支え」が必要なのでは？ と考えました。

仮説について、アンケート結果から導かれる結論は以下の通りです。

- ・ 「自己価値観が低い」ことは、何らかの誘因があったとき問題行動・症状がしやすい「準備状態」が作られていると考えても妥当である。
- ・ しかし、相関関係があったことから、「心の居場所」「心の支え」を作ること、「自己価値観」を高めていける。(アンケートについての詳細はCDをご覧ください)

しかし、「心の居場所・心の支え」は生徒自身が選ぶものです

「心の居場所」「心の支え」観



そこでエネルギーを蓄え(発達が十分に保障されることで)、新しい課題に立ち向かうことができる場であり人であることとの判断基準は、生徒の「心のエネルギー」量です。心の葛藤の時間を十分に保障し、エネルギーが充足されたら今度は押し出してやることも必要であり、その「見極め」が大切です。

思春期は、今まで親に積み上げてもらった価値観が本当に自分に合っているか吟味したり、新しい自分の価値観を積み上げたりする内的な作業を行っているため、一時的に自己価値観が下がると考えます。

発達に伴う「心の葛藤」の時間を十分に保障することが大切です。そのプロセスに付き合うことが、健康相談活動だと考えます。

養護教諭が行う健康相談活動の展望

キーワード
生徒の発達が十分に保障されているか

- ・ 「支援が必要と思われる生徒」に対して、どういう「見立てと支援方針」を持ってかわっているか等、養護教諭の視点で捉えた「課題」を情報発信し、関係者で共有できるシステムづくりが望まれます。
- ・ 生徒個人の課題から見えたものが、学年の抱える課題、学校の抱える課題、地域社会の抱える課題へとリンクしていくことで、「学校教育全体の課題が何なのか」が見えてくるような支援活動になることに努めたいと思います。
- ・ 最終的には「健康相談活動が教育支援活動になること」をめざしたいと思います。